

ワシントン情報、裏 Version

2004年10月7日

竹中 正治

「知的な風見鶏 対 保守一徹」

TV報道で60百万人以上が視聴したという9月30日フロリダにおける Bush 対 Kerry の第1回公開討論（外交、安全保障）では Kerry 候補が優勢だったと見る人が多い。実際、直後の世論調査では Bush 大統領の Kerry 候補に対するリードが縮み、再び接戦模様となった。確かに対イラク戦争行為の説明において、Bush 大統領はとっくに論理破綻している。しかし私の関心を引いたのは、Kerry という人物の雄弁さの裏腹にある風見鶏的性格とその主張の論理的な矛盾である。

【開き直る Bush 大統領】

戦争の大義であった大量破壊兵器がイラクから発見されず、テロ行為におけるサダム政権とアルカイダの連携を証明する材料も提示できない Bush 大統領は、とっくに対イラク戦争の説明において論理破綻している。当然 Kerry 候補は執拗にこの点を攻撃した。対して Bush としては、「Kerry 上院議員自身に対イラク軍事発動に議会で賛成票を投じ、サダムフセイン政権は脅威であると主張していた」、それなのに今更に対イラク戦争は間違った判断だったと批判する変節、優柔不断ぶりは一体なんだという反撃を繰り返した。そして「サダムフセイン政権が倒されたことで世界は安全になった」、それで何の文句があるのかと開き直った。その強情さと論理的な破綻について更に論じる必要はなからう¹。昭和30年代生まれの私の耳には、頑固で一本気な Bush 大統領の背後から、あの懐かしのアニメ主題歌が聞こえて来るような気がする。

「♪思い～こんだら、試練の道を～、行くが男のど根性～♪（中略）♪勝利の凱歌をあげるまで、血の汗流せ、涙をふくな、行け行けブッシュ～、どんと行け～♪」²

【Kerry 候補の論理矛盾】

一方で、私は Kerry 候補がその雄弁さで覆い隠した基本的な論理の矛盾に興味を引かれた。彼はアメリカを守るために対テロの闘いを行う愛国心において、Bush 大統領と自分は同じであるが、それを実現する方法論において大きく相違しており、自分の方が上手に目的を達成できると説いた。そして「9/11 の対応としてイラクに侵攻したのは（日本軍による）パールハーバー奇襲に対応してメキシコに侵攻するようなものだ」というテロ問題の権威者の言葉も引用し、対イラク軍事侵攻自体が対テロ戦争としては誤った選択だった批判した。

こうした Kerry 候補の論理展開は、Bush によってではなく、司会者の Lehrer から次のような鋭い突っ込み質問を受ける。「ベトナムに関して言うと、あなた（Kerry）はベトナム

¹ 米国の対イラク戦争が間違った選択であったこと、日本が自衛隊をイラク復興のために派遣したことの是非は別の問題である。自衛隊派遣は日本の米国支持表明として受け止められるが、倫理から離れたプラグマティックな選択が外交戦略としては許されると思う。勿論、それは日米関係をどう評価するかに依存しているが。

² 「巨人の星」の主題歌の3番には次のような歌詞もある：「やるぞどこまでも、命を賭けて、父と鍛えたど根性、男の誓いを果たすまで、血の汗流せ、涙を拭くな♪」。なんと Bush 大統領のために作られたような歌詞ではないか！ちなみに、以下の Website で懐かしのアニメ主題歌の歌詞と曲が視聴できる。

<http://wagesa.cool.ne.jp/music/anime/anime-titles.html>

から戻って来た 1971 年に議会でこう言いましたね。『政策的な誤りのために兵士に死ぬと命じるようなことが、どうしてできるのか?』 現在アメリカ人は政策的な誤りのためにイラクで死んでいるわけですか?」

Kerry 候補は奇妙なことに次のように答えた。「いいや違う。そして私が提案しているリーダーシップを採用すれば、彼らは死ぬ必要はないのだ。」これは明白に矛盾した答えである。対テロ戦争の手段としてイラク侵攻が誤った選択であるという主張を一貫させるならば、「その通りだ。 (Bush 大統領の誤った選択のおかげで) アメリカの兵士がイラクで無駄に死んでいるのだ」と答えるのが論理的である。

あるいはもしも批判の矛先を弱め、「対イラク軍事侵攻はやむを得ない選択だったが、自分だったらもっと上手く戦争と戦後処理を遂行することができる」と主張するのであれば、「違う (=無駄死にではない)。しかし、私ならばもっと少ない犠牲で成功してみせる」と答えるのが論理的である。ところが Kerry 候補は「いいや違う。そして、私ならば……」という矛盾した回答をしてしまった。

知的な Kerry 候補のことだから、自分の論理矛盾には十分気がついているはずだ。政治的な主張が論理的に矛盾していることは珍しいことではないので、そのこと自体を問題にする気はない。問題はなぜ彼は矛盾した答弁をしたのか、その心理的な文脈である。私の推測する理由は以下の通りである。

【ナショナリスティックな情念に理性をもって対峙することの難しさ】

Kerry 候補は「イラクでの米兵の死は無駄死にだ」と明確に主張することで 9/11 で高じたアメリカ人のナショナリズムを敵に回すことを恐れたのである。現在では「対イラク戦争は正しかったか?」とストレートに質問されると、「正しくなかったかもしれない」と答えるアメリカ人はかなり増えた。しかしそれでも「間違った戦争で 1000 名以上の米兵が無駄に死んだ」という事実を直視して受け入れることができるアメリカ人は少ない。多くのアメリカ人は、自国の始めた戦争と米兵が戦っている (そして死んでいる) 現実を正当化したいという情念を色濃く引きずっている。Kerry 候補がその Bush 大統領批判を貫徹させると、ラディカルになり過ぎて、こうした広範なナショナリスティックな情念を敵に回してしまう。彼はそれを恐れたのでだと思う³。

実際 Veterans Association (在郷軍人会) の組織票は、ペンシルバニア州で 15%、フロリダ州で 14%、ニュージャージー州で 12%、更にこれに家族票を加えると 20% 近く、無視できない大きさの票田であると言う⁴。「米国は正義のために戦って来た」と信じる彼らの票を敵に回すことを恐れるのは政治的には自然な判断かもしれない。しかし 9/11 の後、Kerry 上院議員を含む民主党議員の多くが対イラク戦争に戸惑いを感じながらも、9/11 の仇を討つことを求めるような当時のアメリカ大衆のナショナリスティックな情念に乗じたネオコンの戦略に抗し切れなかった。Kerry 候補は今回のディベートでも同じことを繰り返しているのだ。何時の時代でも、政治家は大衆のナショナリズムを扇動し、乗じること

³一貫して対イラク侵攻に反対した少数派の Dean 民主党候補だったらば、おそらく「その通りだ。Bush 大統領の誤ったイラク侵攻でアメリカ人の無駄な血が流されているのだ」と答えたことだろう。しかし Dean 候補はそのラディカルさの故に候補者に残らなかった。

⁴ 日高正義 ハドソン研究所主席研究員の報告による。

は得意だが、それに対して理性をもって対峙することは難しい。しかしそれができないなら、政治家は風見鶏に過ぎなくなってしまう。

確かに **Bush** 大統領とその政権は強情で間違いを認めようとしめない。しかし **Kerry** 候補も風見鶏の故に犯して来た過ちを改めようとしていない。「知的な風見鶏」と「保守一徹」、11月2日にアメリカはどちらを選ぶのだろうか？

以上